

序 文

国連アジア極東犯罪防止研修所は、1962年の設立以来、犯罪防止や刑事司法分野における国連の取組を踏まえつつ、発展途上国の刑事司法実務家を対象とした国際研修の実施を重ねてまいりました。こうした研修の場では客員専門家や研修参加者により、研修テーマに関する国際的動向や専門的知見、各国の制度・実務についての論文が作成され、これらは、研修テーマをめぐる討議を更に豊かなものとし、研修効果の向上に大きく貢献してきました。リソース・マテリアル・シリーズは、こうした資料の掲載媒体として、1971年の第1巻の刊行以来、当所の国際研修で得られた知見の国際的発信において重要な役割を果たし続けてきた、歴史ある出版物です。

日本国内の刑事司法に携わる政策立案・実務関係者や研究者、更には学生など幅広い読者に、当所の活動を通じて蓄積された世界の刑事司法制度に関する豊富な情報に触れていただけるよう、邦訳版第4巻を刊行するに至りました。

邦訳版第4巻の内容としては、最近刊行されたリソース・マテリアル・シリーズ119号（2025年3月発刊：第185回国際研修、第26回汚職防止刑事司法研修の資料を掲載）及び120号（2025年9月発刊：第1回日ASEAN刑事司法セミナー、第186回国際高官セミナー、第187回国際研修の資料を掲載）の掲載論文の中から、客員専門家の論文に加え、テーマ性や地域的視点のバランスにも考慮しつつ選定し、日本国内において参照していただく意義が高いと考えた論文7本を選定して日本語に翻訳しました。さらに、法政大学大学院法務研究科今井猛嘉教授の論文に関しては、本稿のために、その後の日本の法状況の変化を踏まえた加筆・修正をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

加えて、国際研修で作成された論文に限らず、刑事司法分野における国際的な重要資料も紹介する意義が大きいと判断し、本号においては、昨年12月の国連総会で採択された「再犯防止に関する国連モデル戦略（京都モデル戦略）」についても速やかに翻訳されたものを掲載することとしました。この戦略は、第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都コングレス）の成果のひとつとして日本が取り組んできたものであり、当所としても、研修・会議・出版物を通じてその普及に尽力してまいります。

近年、国際社会で刑事司法分野が抱える課題は複雑化しているとともに、その効果的な対応に向けて、国際協力も一層緊密になってきています。これに呼応し、当所が国際研修等の活動を通じて触れる情報も、広範で、専門的な内容を多く含むようになってきていることから、こうした情報について、翻訳して国内で情報発信をしていく価値は今後益々高まっていくものと考えています。本書を通じて、刑事司法に関する国際的な知見が日本国内で広く周知され、読者の皆様それぞれの立場で活用されることを期待するとともに、翻訳や編集方法を含め、本書の内容については、読者の皆様から忌憚のない御批判、御指導を頂ければ幸いに存じます。

国連アジア極東犯罪防止研修所長

山内 由光